

## － 家庭の芝生 作り方・育て方 －

### 芝生の日常管理

#### 1. 芝生の刈込み

- ①刈り方: 草丈を伸ばしすぎないように、少しずつ頻繁に(週2回程)刈込みます。伸ばしすぎて一気に刈込んだり、低刈りしすぎると、軸刈りとなって芝生の活力が低下し、芝生がまばらになったり雑草が進入しやすくなります。
- ②刈取った草の除去: 刈取った草を除去しないでそのまま堆積させると、キノコや病害の発生、肥料・農薬の効果低減、排水不良等につながり、芝生の損傷の原因になります。

#### 2. 更新・目土

- ①長期に芝生を利用していると、踏圧による土壌固結、サッチの集積およびマット化等の問題が生じ、排水、通気不良を起こし病害虫を多発させ、芝生の活力が低下します。そこで、更新作業(エアレーション)が必要となってきます。(スパイクングフォーク等で土壌に小穴を開け、通気性・透水性の改善を促します)
- ②目土は、サッチ(表層に集積する未分解の有機物)等の分解の促進を主な目的に、夏季高温時を避けて散布。市販の目土を使うと便利で、1袋20kgで約10㎡に散布してください。  
散布時期は春の芝刈り後や初秋に、均一に散布しレーキやホーキ等で、良く芝目にすり込みます。

#### 3. その他

- ①クローバー等の広葉雑草の防除には、除草剤 MCPP液剤 を散布します。
- ②芝生の密度が低下した部分は、状態により3~8g/㎡の種子を目土などに混ぜて追播しますが、マット状になった芝生では、追播した種子の定着率が低くなってしまいます。張り芝等で部分的に補修をしてください。
- ③芝草病害虫発生の場合は殺菌剤や殺虫剤を散布してください。

・芝生の日常管理に使用する肥料・農薬について

資材名	㎡当り投入量	商品名	規格	1袋/本当り散布面積	10㎡当り使用量
肥料	30~40g	スノーユーキ1号	10kg	250~333㎡	300~400g
除草剤	0.5~1.0ml	MCPP液剤	100ml	100~200㎡	薬量 5~10mlを 1~2ℓの水で希釈
殺虫剤	3.3ml	スミチオン乳剤	100ml	33㎡	薬量 33mlを 33ℓの水で希釈
殺虫剤	5~10g	ダイアジノン粒剤	1kg	100~200㎡	50~100g

万が一、芝生が枯れてきたら？

症 状	対 策
肥料のやりすぎで芝生が焼けた	軽症の場合は数週間で回復しますが、回復しない場合は床土を入れ替えて芝生の種子を播き直してください。
肥料が少なすぎて芝生が黄色くなった	肥料が少ない場合は30～40g/m <sup>2</sup> 定期的に施肥をしてください。
乾きすぎて褐色になった	芝生を切って土壌が乾いている場合は水切れです。土壌に十分な水分が行き渡るようにたっぷりと散水してください。
長く伸びた芝生を一気に短く刈り込んだ	芝生の活力低下で、枯れることもあるが徐々に回復します。ただし、病害虫や雑草の侵入を助長しますので、一気に刈り込まない。
害虫が出た	害虫が芝生の根を食害したり、ムシを探して鳥が芝をほじくったりします。被害が大きい場合は殺虫剤を散布してください。
芝草病害が発生した	芝生の葉面に円形状やドーナツ型の病害の症状が出る場合があります。ケンタッキーブルーグラスは、適切な管理をしていれば病害にほとんどかかりませんが、場合により殺菌剤を散布します。